

会 議 録

会 議 の 名 称	令和2年度第1回行田市総合教育会議
開 催 日 時	令和2年7月17日（金） 開会：午前9時15分　閉会：午後0時10分
開 催 場 所	行田市郷土博物館　2階　会議室
出席者（委員） 氏 名	石井直彦市長、鈴木トミ江教育長、岸田昌久委員、 鹿山高彦委員、飯塚千十世委員
欠席者（委員） 氏 名	大久保英子委員
事 務 局	石川副市長 学校教育部：吉田学校教育部長、荻原参事兼学校教育課長事務取扱、 諸貫学校教育部次長兼教育総務課長、 須永学校教育課主幹 総合政策部：畔上総合政策部長、島田企画政策課長、 横倉企画政策課主査、渋澤企画政策課主任
会 議 内 容	議事 （1）学校臨時休業中の取組みと本年度授業時間数の確保について （2）感染症対策について （3）学校ICTの活用計画について 報告 （1）学校再編成の進捗状況について
会 議 資 料	・ 会議次第 ・ 資料1　学校臨時休業中の取組みと本年度授業時間数の確保について ・ 資料2　感染症対策について ・ 資料3　学校ICTの活用計画について ・ 資料4　見沼中学校区における施設一体型義務教育学校の設立について
そ の 他 必 要 事 項	傍聴者　1名

発 言 者	会議の経過（議題・発言内容・結論等）
司 会	1 開会 2 市長あいさつ 3 議事
司 会	<ul style="list-style-type: none"> <li>・続いて、次第の3「議事」に入る前に、会議の公開・非公開に関する取扱いについて確認させていただく。本日の会議は、議事の中で個人情報を取り扱う予定がないことから、原則公開とさせていただく。また、会議録の作成は要点筆記とし、委員名を明記の上、市政情報コーナー及び市ホームページにおいて公開させていただく。</li> <li>・それでは、本日の「議事」に入る。進行については、要綱第4条第1項の規定により、会議の議長は市長が務めることとなっていることから、ここからは石井市長に議事の進行をお願いする。</li> </ul>
議 長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・それでは、暫時、議長を務めさせていただく。</li> <li>・はじめに、議事の（1）「学校臨時休業中の取組みと本年度授業時間数の確保」について、事務局から説明をお願いする。</li> </ul>
事 務 局	<p>&lt;資料1により報告&gt;</p>
議 長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ただいま事務局から説明があったが、ご意見やご質問があればお願いします。</li> </ul>
鹿山委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・家庭学習の課題設定として「コバトン問題集」や「復習シート」を学力定着度の確認として活用しているとあるが、具体的にはどのように定着度を確認しているのか。</li> </ul>
事 務 局	<ul style="list-style-type: none"> <li>・家庭学習において、問題集等にきちんと取り組んでいるかという点で確認を行っているものである。</li> </ul>
岸田委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今年度は新型コロナウイルス感染症の影響で、つまずき解消に取り組むべき年度当初に臨時休業となってしまった。子どもたちは、自己負担で各種ドリル等を購入しているが、臨時休業となったことによりそうした各教材の取扱いはどうなったのか。</li> <li>・また、年度当初に予定していた全国学力・学習状況調査や埼玉県学力・学習状況調査について、本市ではどのように取り組むのか。</li> </ul>
事 務 局	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全国学力・学習状況調査については、文部科学省より中止する旨が公表された。</li> <li>・埼玉県学力・学習状況調査については、実施は市町村単位で任意</li> </ul>

飯塚委員	<p>とされており、本市では各学校において6月下旬から7月上旬にかけてすでに実施したところである。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・他自治体では、加須市が参加しないと表明しているが、県内のほとんどの市町村が実施している。</li> <li>・学校休業期間中の子どもたちは家庭で過ごす時間が多く、家庭学習の重要性が再認識されたように感じている。多くの児童・生徒が家庭学習に無理なく取り組めていたか。</li> </ul>
事務局	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各学校においては、説明プリントの作成や電話等による支援など、保護者の協力も得ながら新たな学習に取り組めるようサポートを行ったところである。</li> </ul>
岸田委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・入学式、卒業式ともにこれまでにない実施形態であったが、大きな混乱もなく無事に終えられたように見受けられる。今回のように、不測の事態において柔軟な対応が図られたことは今後にもつながっていく。</li> <li>・動画コンテンツの活用やホームページ、メールを活用した課題配信とあるが、インターネット環境は各家庭によって異なる。状況についてはどのように把握しているか。</li> </ul>
事務局	<ul style="list-style-type: none"> <li>・中学校の卒業式については生徒のみで行い、小学校の卒業式及び小学校、中学校の入学式については、保護者の人数を限定し実施したところである。</li> <li>・インターネット環境について保護者アンケートを行った結果、9割以上の世帯がパソコンやスマートフォンにより課題受信が可能であると確認したところである。</li> </ul>
議長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・臨時休業中の取組みについて様々なものが挙げられているが、それらを行った結果、子どもたちの学習にどんな効果があったのか。また、それらの取組みを教育委員会としてどう分析しているのか。</li> <li>・動画コンテンツを活用することはよいが、活用した結果、どんなメリットや課題があったのかを分析したうえで次の方策を考えていかなければならない。</li> <li>・今回の取組み結果を学校ごとに分析した上で、市全体として学校の規模に応じた進捗管理を行っていく必要があると考えている。各学校に対して報告を求め、それを教育委員会から各学校にフィードバックするような体制整備を検討してもらいたい。</li> </ul>
事務局	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校ごとの取組み結果やその分析までは行っていない。学校再開後に授業を進めていく中で、各担任において、子どもたちに臨時</li> </ul>

議 長	<p>休業中の取組みが学力に結びついているかを確認している。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 6月中に各学校に対し、再開後の授業が計画的に進んでいるかの確認を行ったところであり、現在は臨時休業による遅れを取り戻すことを最優先に、各学校において授業を進めている。これまでの取組状況については、各学校に報告させるなど、今後方法を検討していく。</li> <li>・ 家庭学習の支援や課題設定について、教育委員会から各学校にはどのような指示を行ったのか。</li> </ul>
事 務 局	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 3月については、取組むことができなかった各教科の分野について、家庭学習でしっかりとカバーできるような計画を立て、子どもたちに課題として課すよう指示をした。</li> <li>・ 4月以降については、新学年の教科書が配布できたこともあり、新たな教科書のうち、現状で取り組むことが可能である分野について、学校において家庭学習計画を作成するよう指示したところである。</li> <li>・ 6月以降の学校再開後については、子どもたちが一日も早く新たな学習に慣れ、安定した学校生活を送れるよう、学習環境を整えることを優先するよう指導している。</li> </ul>
議 長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 教育委員会が中心となり、各学校での効果の大きかった取組みを他の学校に波及させていけるようなシステム作りはできないかと考えている。</li> <li>・ 地域環境や規模も学校により異なるが、各学校の先生たちは他校での取組みについて必ず興味を持っているはずである。</li> </ul>
事 務 局	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 学校ごとの取組み状況については、教育委員会において現場視察やヒアリングを行った結果を取りまとめ、各学校に共有を図るとともに、学校ごとでも様々な場面で情報交換は行っているところである。</li> </ul>
議 長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 学力定着度の確認として問題集等を活用したとあるが、課して終わりではなく、その都度小テストなどを行い定着度を確認する必要がある。</li> <li>・ また、そうした取組みは学校ごとに個別に検討するのではなく、例えば行田版の統一小テスト等を教育委員会が中心となって作成するなど、市を挙げた効果の高い学習支援を検討していく必要がある。今回の臨時休業を機に、取り組んできたものの反省点をしっかりと捉えていくべきである。</li> <li>・ さらにそれらの取組みの結果をしっかりと分析し、各学校へ共</li> </ul>

	<p>有を図ることで、弱点の洗い出しや市全体の教育のレベルアップを目指していかなければならない。我々も消極的にならず、積極的に子どもたちにとって有効な取組みを模索していかなければならないと考えている。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・各学年の1学期という時期は子どもたちにとって非常に重要な時期であり、今効果的な取組みが図れたかどうかで、学力にも大きく差が出るものと考えている。そうしたことも念頭に、教育委員会がリーダーシップを発揮し、効果的な対策を図ることで学力向上につなげてもらいたい。</li> <li>・各学校で様々な取組みがあるのは当然であり、学校の規模によっても取組み内容が異なっているのは当然である。特に課題発信についてはまだまだ発展途上であり、今後はさらに、教育委員会が様々な情報を各学校に対して発信し、変化を促していくことが重要である。</li> <li>・学力向上を目指す上では、時代の変化に合わせて我々も変化していく必要がある。今回の臨時休業中の取組みについて、教育委員会としての反省点や不足していた点の洗い出しを行ってもらいたい。</li> <li>・臨時休業となったことに伴う、不登校の児童・生徒への対応はどのように行ったのか。現状を分析し、すぐにでも取れる対策があれば早急に実施した上で、的確な個別対応をとっていく必要があると考えている。</li> </ul>
飯塚委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・臨時休業となったことによる、子どもたちへの心のケアについてはどのような対策を行っているのか。また、子どもたちの現状についてどのように捉えているか。</li> </ul>
事務局	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもたちの心のケアを考える上では、保護者と子どもとの関係も重視しなければならない。学校においては、臨時休業中に週1回程度電話による確認を行ったほか、適宜家庭訪問を行い子どもたちの状況把握に努めてきたところである。</li> <li>・また学校再開後においては、子どもたちが長い臨時休業という特殊な状況を経験したことも踏まえ、各学校で特に丁寧に目を配ってきているものと考えている。</li> </ul>
教育長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもたちへの心のケアについては、教育研修センターの適応指導教室ウイズの活用や、個別に面談を行うなど、特に臨時休業明けの子どもたちの状況や些細な変化にも目を配り対応しているところである。</li> </ul>
議長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・面談等により状況を把握することは必要であるが、把握した上で</li> </ul>

<p>岸田委員</p>	<p>どんな対応をとったのか、それがどんな改善につながったのかを分析し、市全体へ波及させていくことが重要である。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・臨時休業により、子どもたちが学校で過ごす時間が大きく減ってしまったことは大変残念である。</li> <li>・また、教科書の年間指導計画によると、減ってしまった年度末は多くの教科でまとめの時期となっているが、まとめの授業が行えなかったからこそ、家庭学習による学力定着度の把握が重要なのではないか。子どもたちが自ら学ぶことができたのか、時間数やページ数による把握ではなく、実際に身につけているかどうかの実態把握を行っていくべきである。</li> <li>・現在においても感染症の猛威は衰えておらず、今後またいつ臨時休業となってもおかしくない。今後しばらくは現在の状況が続いていくことを踏まえ、さらなる臨時休業が行われることを前提に将来に向けた取組みを検討していくべきだと考える。</li> </ul>
<p>事務局</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学力定着度については、各担任において適切に把握しているものと認識しているが、子どもたちの定着度の状況によっては、学力向上支援教員の活用等についても積極的に働きかけていきたい。</li> </ul>
<p>議長</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学力向上支援教員によるフォローアップについては、どのような活用方法を見込んでいるか。</li> <li>・また、支援教員について各学校での具体的な取組み状況をどのように把握しているか。これらにおいても、効果のあった支援方法についての事例を収集し、積極的に共有を図っていく必要があると考えている。</li> <li>・今後予定されている各行事の見直し状況については、どのように把握しているか。学校行事の見直しや中止の判断については、すべてを学校に委ねるのではなく、場合によっては市としての一定の指針等を設ける必要があるのではないかと考えている。</li> </ul>
<p>事務局</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学力向支援教員の活用として、ある学校では、2クラスの生徒を3グループに分け、学力向上支援教員を活用し3名の教員により授業を行った例などがある。</li> <li>・また、放課後の補習学習の時間において、学力向上支援教員が子どもたちに指導しながらともに宿題に取り組む等、子どもたちに寄り添った個別的な支援を行っている。</li> <li>・小学校の運動会については、例年の5月から2学期に延期することとし、中学校の体育祭については、練習に多くの時間を要する競技は中止とするなど、時間短縮を図る方策を検討している。</li> <li>・また、連合運動会は中止するとともに、バス移動を伴う行事につ</li> </ul>

	<p>いても当面の間中止とする予定である。今後も様々な行事が予定されている中、さらに洗い出しを進め、安心な学校環境の構築を図るとともに、子どもたちの変化についても注視していく。</p>
議 長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・他にはよろしいか。</li> <li>・次に、議事の（２）「感染症対策」について、事務局から説明をお願いする。</li> </ul>
事 務 局	<p>＜資料２により説明＞</p>
議 長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ただいま事務局から説明があったが、ご意見やご質問があればお願いする。</li> </ul>
鹿山委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新型コロナウイルス感染症の症状の一つとして、味覚障害が挙げられる。その日の朝食をおいしく食べられたか、子どもたちに確認することも方策の一つであると考えられる。</li> <li>・依然として新型コロナウイルス感染症は猛威を振るっており、いつ、誰が感染してもおかしくない状況である。学校においては、不要不急の来訪者を校内に入れないことも重要ではないか。</li> <li>・今後、新しい生活様式やソーシャルディスタンスの考え方が進む中で、子どもたちへの影響が心配される。各学校、各担任においては、子どもたちが前向きになれるような寄り添いや心のケアを行うとともに、規則正しく健康的な生活の実践について指導を行ってほしい。</li> </ul>
事 務 局	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校にとってもこれまでに経験したことのない状況が今後も続くが、様々な立場の皆様から御意見をいただきながら、適切に対応していく。</li> </ul>
岸田委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・感染症が広がる中ではあるが、他の病気を早期に発見することも非常に重要である。今年度の子どもたちの定期健康診断及び教職員の定期健康診断の実施状況について伺いたい。</li> <li>・子どもたちの健康観察や検温結果の確認については、担任がしっかりと行うべきだと思うが、具体的にはどのように行っているのか。</li> <li>・各学校では子どもたちの衛生検査も行っていると思うが、例えばその時にハンカチの正しい使用方法を指導するなどの工夫も必要ではないか。</li> <li>・県内の自治体において、学校給食を起因とした大規模な食中毒が発生し大きく報道されたところである。これからは食中毒の危険性も高まる時期であるが、本市での給食当番を行う際の注意点等</li> </ul>

事務局	<p>についてどのように子どもたちに指導しているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・様々な病気の発生を防ぐためには、日頃からの医師会との連携が非常に重要であると考えている。</li> <li>・子どもたちの内科検診については7月中から、眼科検診及び歯科健診については情勢を鑑みながら、2学期以降の実施を予定しているところである。また、教職員の健康診断については8月中に実施する予定である。</li> <li>・各担任においては、家庭から提出された検温カードの確認を行うとともに、体調不良の児童・生徒がいた場合には、養護教諭とも連携を取りながら速やかに保護者へ連絡を行うなどの対応を行っているところである。</li> <li>・また、持ち物検査や身だしなみ検査等の衛生検査は普段通り行っているところであり、現在は物の貸し借りについても極力控えるよう子どもたちに指導しているところである。</li> <li>・食中毒が発生した他市の事例では、非加熱食材が原因の一つであるといわれており、今回の事例については学校給食センターとも連絡を取り合っているところである。また、配膳の際には子どもたちを一例に並ばせないよう工夫するとともに、手洗いの徹底を指導している。</li> <li>・教育委員会としても医師会との連携は非常に重要であると考えており、今後も先手の対応がとれるよう取り組んでいく。</li> </ul>
教育長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・感染が発生した場合のマニュアルについては、医師会、薬剤師会、歯科医師会にも指導いただいた上で、保健所とも連絡を取りながら、行田版マニュアルを作成し、各学校に周知したところである。</li> </ul>
鹿山委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・万が一、学校で感染者が出てしまった時には、その子どもに対する偏見やいじめが起きないか危惧される。</li> </ul>
事務局	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ある学校の道徳の授業においては、今回の新型コロナウイルス感染症の事例を取り上げ、感染者となってしまった子どもへの声掛けやその対応について学ぶなどの工夫を行っている。こうした事例については、各学校とも情報共有を図り、適切な対応を指導していく。</li> </ul>
飯塚委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・そうした指導は子どもたちのみならず、保護者へも伝えていくべきではないか。</li> </ul>
事務局	<ul style="list-style-type: none"> <li>・様々な場面で、しっかりと周知を図っていく。</li> </ul>



議 長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもたちは、学校生活の中でマスクを汚してしまうことも多いのではないか。児童・生徒に対して、学校にマスクの予備が十分にあることを伝えるべき。</li> <li>・新型コロナウイルス感染症に子どもたちが感染した場合、保護者が感染した場合、教職員が感染した場合、それぞれの対応マニュアルについては整備されているのか。特に、保護者が感染した場合には、その児童の見守りも考えながら、対応策を検討していかなければならない。</li> </ul>
事 務 局	<ul style="list-style-type: none"> <li>・感染者が確認された場合の統一的なマニュアルを整備しており、それに基づき対応することとなる。</li> <li>・例えば、保護者の感染が確認された場合には、その子どもが濃厚接触者となりPCR検査の受診対象となることから、その段階よりその児童が学校でどのような行動をとっていたのかを把握していく。その後、その児童の感染が確認された場合には、保健所に報告し指示を受けながら、直ちに臨時休業の措置を取り、学校内での濃厚接触者の有無について確認していくこととなる。</li> <li>・各学校には、陽性となった児童の直近の出席状況や濃厚接触者の有無及びその規模等も考慮しながら、臨時休業期間を検討し、指示していくこととなる。</li> </ul>
議 長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・他にはよろしいか。</li> <li>・次に、議事の（３）「学校ICTの活用計画」について、事務局から説明をお願いします。</li> </ul>
事 務 局	<p>&lt;資料3により説明&gt;</p>
議 長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ただいま事務局から説明があったが、ご意見やご質問があればお願いします。</li> </ul>
岸田委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ICTの活用においては、より豊かな学習方法としての一面と、新たな生活様式への対応という一面がある。</li> <li>・また、今後はICTを授業に有効活用できているかどうか、子どもたちの学力に大きな影響を及ぼすものであると考える。</li> <li>・ICT端末については、一学級当たり1台なのか、児童・生徒一人当たり1台なのか。</li> </ul>
事 務 局	<ul style="list-style-type: none"> <li>・GIGAスクール構想においては、児童・生徒一人にICT端末1台を配布し、どの授業でも活用できるようにしていく計画である。また、家庭学習には原則各家庭のICT端末を活用していただくこととなるが、学校から持ち帰って活用できるようにするこ</li> </ul>

	とも検討している。
鹿山委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>Webカメラの活用による校長会や主任会等のWeb会議が想定されているが、セキュリティの面において不安がある。運用方法についてはマニュアル化を行い、適切に実施していく必要がある。</li> </ul>
事務局	<ul style="list-style-type: none"> <li>Web会議等の実施にあたっては、カメラを通じて画面に映し出される情報から、様々なことが推察されてしまう恐れがあると認識している。実際に運用を始めるにあたっては、きちんとしたマニュアルや運用方針等を整備したい。</li> </ul>
岸田委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>最近の報道によると、文部科学省から学校へのスマートフォンの持ち込みを条件付きで容認するとの方針が出されている。行田市での対応はどのように考えているか。</li> </ul>
事務局	<ul style="list-style-type: none"> <li>本市では以前より、「行田版 ケイタイ・スマホ家庭の約束」を定め、子どもたちや保護者に対して適切な使用方法を指導しているところである。</li> <li>文部科学省が示す前提条件もあることから、現在のところ持ち込み容認までは考えていないが、引き続き国や他自治体の対応を注視していく。</li> </ul>
議長	<ul style="list-style-type: none"> <li>ICT機器等については、現在の教職員がどの程度端末を使えるのか、各学校において活用できる教職員がどの程度いるのかといった調査を、少なくとも新システム導入までには行ってほしい。</li> <li>教職員研修については、導入後の状況も見据えてもっと前倒しで実施することはできないか。既に南河原小学校、南河原中学校ではタブレット端末を導入していることから、こうした実績を活用し、研修への応用について検討してほしい。</li> <li>学校間をつないだ授業については令和4年度からと目標設定されているが、これでは遅いのではないか。新型コロナウイルス感染症の第2波、第3波の襲来も想定されることから、来年度から完全実施とまではいかなくとも、できることから徐々に取り組んでいくべきである。ICTの導入効果を高めるためには、早急にその活用を図ることが必要である。</li> </ul>
事務局	<ul style="list-style-type: none"> <li>毎年3～4月に、文部科学省より「ICT機器の導入状況」や「教職員の活用状況」についての調査を行っているところではあるが、学校ごとの把握までは行ってない。</li> <li>新システム導入にあたっては、教職員研修の実施により使用方法</li> </ul>

<p>議 長</p>	<p>等を含め、しっかり先生たちをサポートしていく予定である。南河原小学校、南河原中学校では、今後導入する新システムと同等程度のものを今夏までに導入する予定があることから、それらを活用した教職員研修の前倒しについて検討する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもたちの自宅の通信環境等については、早急に確認を進める。</li> <li>・他にはよろしいか。</li> <li>・次に、報告事項の（１）「学校再編成の進捗状況」について、事務局から説明をお願いする。</li> </ul>
<p>事 務 局</p>	<p style="text-align: center;">＜資料４により説明＞</p>
<p>議 長</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ただいま事務局から説明があったが、ご意見やご質問があればお願いする。</li> </ul>
<p>岸田委員</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市のホームページを見ると、各部会の議事録が掲載されており、細かいことではあるが重要な議題に取り組みられているように見受けられる。今後も地域と協力し合いながら、計画的に進めていってもらいたい。</li> <li>・「うきしろの教育ランドデザイン」においては、『温故創生』という言葉掲げ、古きをたずね新しいことを生み出していくことの推進に取り組んでいくこととされている。これまでに引き続き、地域とともに新しいものを生み出していくことは非常に重要であると考えている。</li> <li>・また、今回の取り組みが市内の他の学校再編成におけるモデルケースにもなっていくことから、市としても積極的に、前向きに取り組んでももらいたい。</li> </ul>
<p>事 務 局</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新型コロナウイルス感染症による会議開催の遅れ等はあったものの、各部会では子どもたちのことを第一に考えた検討がなされているところである。</li> <li>・今後はより具体的に新しい学校生活がイメージできるよう、さらに理解を深めた議論を進めていきたい。</li> </ul>
<p>鹿山委員</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・行田では初めての試みであり、注目度も高いと同時にクリアすべきハードルも高いように感じる。行田市全体の将来的な学校教育を考えていく上でも、今回の過程と結果は非常に重要であり、試行錯誤を重ねながら、魅力や特色あふれる学校づくりに引き続き取り組んでいってもらいたい。</li> </ul>
<p>議 長</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小中一貫教育によるハード面、ソフト面それぞれのメリットは何</li> </ul>

事務局	<p>か、どんな変化があるのか示してもらいたい。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・また、義務教育学校でなければできないこと、義務教育学校ならではの良さを挙げることも必要である。保護者も今後どう変わっていくのか具体的なイメージができていないのではないか。</li> <li>・小中一貫教育の実現によって、同じ学び舎に専門的な知識を持った教員がいることとなり、小学校と中学校を横断的に指導可能となることが一つのメリットであると考えている。</li> <li>・また、小学校時代から中学校生活や授業の準備が進められ、子どもたちにとっても比較的スムーズに中学校生活への移行が図られるものと考えている。</li> </ul>
副市長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・見沼中学校区の特色ある教育の推進として、「英語教育」、「ふるさと教育」及び「ICT教育」が掲げられているが、それらの具体的な取り組み方法はどのようなものを想定しているのか。</li> <li>・こうした目標だけを見ると、どれも特色的ではなく、どの学校でも取り組めるものに思えてしまう。見沼中学校区ならではの魅力を再度捉えなおし、特色ある教育について体系立てて整理してもらいたい。</li> </ul>
事務局	<ul style="list-style-type: none"> <li>・英語教育については、ALTが毎日配置され、英語科の教員が9年間にわたり専門的な指導ができることとなり、小学校から中学校まで効果的な学習が行えるものと考えている。</li> <li>・ふるさと教育については、地域の中核でもある「利根」というキーワードや「利根川」を中心に、地域の魅力を学べるような学習を進めていくことも考えられる。</li> <li>・ICT教育については、他校のモデルとなるような運用方法を検討していきたいと考えている。</li> </ul>
飯塚委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・現在の見沼中学校の校舎に、小学校と中学校の児童・生徒たちが集い学ぶこととなるが、教室等の設備に不足はないか。</li> </ul>
事務局	<ul style="list-style-type: none"> <li>・見沼中学校建築当時より生徒数も減少していることから、現在は多少の余裕教室等がある状況となっている。再編成にあたっては、特別教室の使い方の見直しや、多目的に使用できる教室とするための改修等を行った上で、子どもたちの教育環境を整えていく予定である。</li> </ul>
岸田委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・義務教育学校を進めるにあたっては、教職員の人事についても重要であると考えている。</li> </ul>

教 育 長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教職員人事についても、計画的に検討を進めるとともに、県に対しても要望等を行っているところである。</li> </ul>
議 長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・他にはよろしいか。</li> <li>・次に、議事の（５）「その他」について、事務局から連絡事項等があればお願いします。</li> </ul>
事 務 局	<p style="text-align: center;">＜特になし＞</p>
議 長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・その他、教育委員の皆様から何かあればお願いします。</li> <li>・それでは、これにて議事を終了する。教育委員の皆様には、スムーズな議事進行にご協力賜り、ありがとうございました。</li> <li>・それでは、これをもって議長の職を解かせていただき、事務局に進行をお返しする。</li> </ul>
事 務 局	<ul style="list-style-type: none"> <li>・以上をもって、令和２年度第１回行田市総合教育会議を閉会とする。</li> </ul> <p style="text-align: center;">＜ 閉 会 ＞</p>